

筑波大学新聞

第251号

編集責任 筑波大学新聞
編集委員会 委員長 嶺 隆
TEL: 029(853)2040-6699
E-mail: shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

授業評価 回答率 16.8%
高工研で茅刈り 茅葺き民家守ろう
男子バレー 東海大破り2連覇
嘉納林 秋本、強敵・内柴を破り優勝
ズームアップ 本学の交通事故
芸術研究科 世界遺産カルタ手作り
11 10 9 8 5 2
特集 6,7
巣立つアスリート
北京五輪へ 希望と決意
ミニ特集 3
退職教員
これまで これから

宿舎に無線 LAN

4月から試験運用 会館周辺など 30台設置を予定

学術情報メディアセンター(学情)は、学生宿舎に無線LANを導入することを決めた。4月からの試験運用を予定している。認証には、学情のIDを利用する。予算との兼ね合いで、全ての宿舎を網羅できず、利用可能なのは、屋上に設置されるアクセスポイントから50メートルほどの範囲になりそうだ。アクセスポイントは、順次、増設し、将来は全宿舎での利用を目指す。学情は、運用実験に協力してくれる学生を募集している。

今回、導入されるのは、を設置することが決定してすでに無線LANが完備されている春日地区を除く、平砂、追越、一の矢宿舎地区。アクセスポイントの設置が決定しているのは、平砂地区では、共用棟、6号棟、7号棟、9号棟、11号棟に各1台、10号棟に2台の計7台。追越地区には、6台、一の矢地区には7台

設置場所は未定。大学会館、中央図書館などにも設置を予定している。台数は学内合計で30台となる予定だ。工事は2月初旬から始まり、運用は4月から、調整を加えながら行われる。アクセスポイントは、試験運用の結果、変更される可能性がある。年内には、整備を完了したいという。

運用には、独立したLANネットワークを構築した上で学内LANに接続する。回線速度は学内の無線LANの最大11Mbpsに對し、最大54Mbpsと高速になる。認証には、学情の教育計算機用のパスワードを使用する。

患者の個人情報流出 学生の「ウィニー」で感染

本学附属病院に入院していた患者41人の病名、症状、診療データなどの診療情報がインターネット上に流出していたことがわかった。うち20人については氏名が含まれているという。1月19日、記者会見で工藤

本学附属病院に入院していた患者41人の病名、症状、診療データなどの診療情報がインターネット上に流出していたことがわかった。うち20人については氏名が含まれているという。1月19日、記者会見で工藤

本学附属病院に入院していた患者41人の病名、症状、診療データなどの診療情報がインターネット上に流出していたことがわかった。うち20人については氏名が含まれているという。1月19日、記者会見で工藤

静脈認証 機種 の更新遅れる 当面、暗証番号と併用

昨年10月20日の運用開始以来、認証率の低さや誤認証が指摘されてきた学生宿舎の静脈認証システムは、認証機を改良し、新しい認証ソフトを導入するなど改善作業が続いてきたが、本格稼働がいつになるか、2月1日現在、メドは立っていない。

施設部は1月24日、改良型のテストを行ったが、トラブルが発生し、現在メニューが再度改良を加えている。現行型と改良型両方のシステムを開発したデジコム(東京・新宿区)のマイケル金代表取締役は、改良機について「誤認証率を1000分の1にまで下げたい」といい、学生生活課の川尻男課長補佐も「新機導入によって認証率は確実に上がる」と期待している。

デジコムは、認証率の低下の原因の一つとして、認証機が屋内向けの製品だったことを上げている。金代表によると、同社の認証システムを導入している企業はほとんどは、空調や照明のほかに、認証機を屋内に設置することを想定している。表によると、同社の認証システムを導入している企業は、認証率の低下の原因の一つとして、認証機が屋内向けの製品だったことを上げている。金代表によると、同社の認証システムを導入している企業は、認証率の低下の原因の一つとして、認証機が屋内向けの製品だったことを上げている。

しているため、誤認証などの問題は発生していない。「宿舎のような環境で使用する場合は、隙間から光が差し込むことで誤作動を起こす可能性が高い」と金代表は言う。

改良型認証機とソフトは、静脈の太さや本数など個人差に幅広に対応することを目指す。1月24日のテストで誤認証が発生したことを受け、ソフトをバージョンアップし直している。

当初予定した2月中の機種更新は事実上、不可能となった。川尻課長補佐は「現在宿舎に住んでいる学生で

平成18年度大学入試センター試験が1月21、22日の両日行われ、本学では約6200人が受験した。初のリスニング8人が再テスト

相次いだ。本学では5会場に試験科目となった英語のリスニングテストで、機器の不具合によるトラブルが

入試課によると、再受験



雪を踏んでセンター試験
初のリスニング8人が再テスト

者は、リスニングテストの本試験終了後、その場で待機し、他の受験者が退場した後、再テストを受験した。問題のあった機器は、使用していた受験生の受験番号をつけて、大学入試センターへ送り、原因を究明する。再テスト受験者は全国で約4500人になった。

ある受験生は、試験中に携帯電話が鳴り、試験官が注意している間に解けなかった問題があったため、再テストを申し出たが受けられなかった。携帯電話はその受験生のものではなかったことがわかり大学入試センターは、後日再試験することにしたが、平均点の結果を見て、本人が辞退したという。

「こころしく 過ぎゆくかたの 恋しきに うらましくも かへる波かな。打っては また来た方へ返して行く波を見て、「自分は帰らなくても都に帰れないのに羨ましい」と詠んだ在原業平の歌である。一見季節の歌と思わせるが、「かきくは返ると「帰る」の掛詞であり、妻とは別の女性に贈った恋の歌なのである。現代でも歌や小説に愛をテーマに取り上げるものは多い。「愛の感情は「カセクトする体験」に伴う情動」であるという。「愛する」ということは「自己満足に浸ることではなく、自分以外の存在に引きつけられ、のめりこみ、関わり合うこと」によって、既存の殻を打ち破り、自分の新たな可能性を広げること」と考えられている。

◆精神科医は、これを「愛する」とは言わず「カセクトする体験」という。株、宝石、團圓などにもカセクトする。愛を感じる対象はなにも人とは限らないのだ。▼一年の浪人時代を経験して筑波大に合格した。浪人時代、私は筑波大に恋い焦がれていた。入学当時、自分の新しい可能性を胸に秘めて、確かに筑波大を愛していた。新しいスーツに身を包み、大学の広大で緑に溢れた美しい光景に引き込まれてしまったのを覚えている。▼入学して2年。今も愛していると

アスベスト最終報告 基準値 大幅に下回る 室内露出 97棟は改修

本学で使用されているアスベスト含有建材の使用状況や劣化状況を調査して、アスベストの露出している97棟に関しては、政府の補正予算で改修を行う予定だ。

アスベスト対策連絡会で、今後半年1回程度の目視点検を継続していくという。

アスベスト対策連絡会では、今後半年1回程度の目視点検を継続していくという。

いたアスベスト対策連絡会(座長 岡本健一 環境安全管理室長、数理物質・教授)は昨年12月21日、最終報告を公表した。それによると学内でアスベストが使用されていたのは、101棟(2787室)で、うち97棟(2452室)で室内に露出していることが判明した。多くは天井などに使用されていた。

室内のアスベスト飛散量は最大でも1リットル中0.35本だった。大気汚染防止法の基準値1リットル中10本を大きく下回る数値だった。連絡会は危険性はないとみている。

「こころしく 過ぎゆくかたの 恋しきに うらましくも かへる波かな。打っては また来た方へ返して行く波を見て、「自分は帰らなくても都に帰れないのに羨ましい」と詠んだ在原業平の歌である。一見季節の歌と思わせるが、「かきくは返ると「帰る」の掛詞であり、妻とは別の女性に贈った恋の歌なのである。現代でも歌や小説に愛をテーマに取り上げるものは多い。「愛の感情は「カセクトする体験」に伴う情動」であるという。「愛する」ということは「自己満足に浸ることではなく、自分以外の存在に引きつけられ、のめりこみ、関わり合うこと」によって、既存の殻を打ち破り、自分の新たな可能性を広げること」と考えられている。

授業評価 回答率16.8%

前年同期を下回る

大学 アップへ意見一致

TWINS(ツインズ) された全学授業評価の回答率を利用して1学期末に実施 率は16.8パーセントで昨年より1.2パーセント減少した。12月13日午後6時からIC302会議室で開かれた学生、職員合同の授業評価懇話会で、こんな数字が報告された。予期した以上に低い数値で、大学と全学学類・専門学群代表者会議(全代会)は今後、回答率アップに向け、協力しながら取り組んでいくことと意見が一致した。



授業評価の結果が報告された(IC302教室で)

によると、前年同期比で回答率がアップしたのは、総合科目22.1パーセント(前年18.5パーセント)と国語22.7パーセント(同16.4パーセント)だけだった。最も回答率が高かったのは情報処理(上級)で、履修者20人に対して回答者10人で、回答率は50パーセントだった。「履修登録者が少ないほど回答率が高くなる傾向にある(学群教育室)という。体育の回答率は3.6パーセント減少し18.2パーセントだった。科目別別評価得点(5点満点)の平均では、前年度同様、体育が4.29(前年比0.24ポイント増)で最も高かった。自身の取り組みについては回答者の67パーセントが「十分」と答えた。授業については70パーセントが「満足」と答えた。「授業への取り組みが熱心な学生ほど満足度が高くない」と教員の授業評価に対する熱意を問題にした。評価の結果を「授業についてフィードバックする」とも問題点として指摘された。「教員が結果をすぐに見ていないのではないかと活用していない可能性がある」と語った。

このサイクルシステムは大学とつば市、民間企業が連携して行う初めての試み。地域が一体となって取り組むことによって、よき実効性が期待される。現在、環境省に3年間の6億円の予算を申請中。「循環型社会」を作ることによって地域で新たな産業が生まれ、雇用対策にもつながると杉浦教授は言う。

カウンターリニューアル 中央図書館 窓口一本化など

中央図書館のカウンターが、1月6日からリニューアルされた。今年度の「図書館サービス向上プロジェクト」の一環として、昨年夏から計画されていたものだ。

今回の主な改善点は4つある。第一は、カウンターの機能的統合を図り、窓口を一本化したことだ。他大学の図書や文献を複写する際、これまで申し込みの窓

口(レファレンスデスク)と受け取りの窓口(相互利用窓口)が別々だったが、今回窓口を統一し、分かりやすくした。

第二は、窓口の利用時間を拡大した。平日は午前12時から午後1時まで、閉め切っていたレファレンスデスク、ボランティアカウンターを開き、利用できないサービスがあったメインカウンターも、通常のサービスを行う。担当職員の割り当てなど、困難な問題もあったが、サービスの向上を優先した。平日の図書の貸出時間、これまでの午後9時から30分延長した。

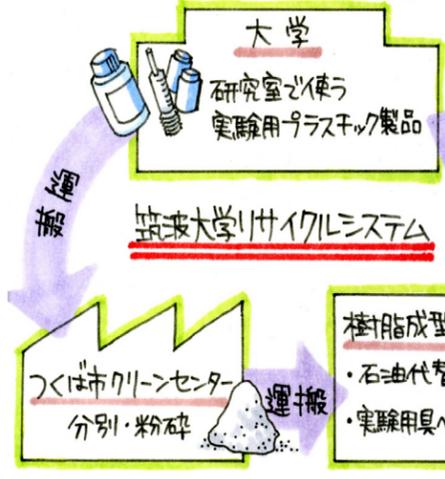
第三は、ボランティアアカウンターの増設。図書館内の案内や障害者の補助などを行うボランティアアカウンターは、これまでの階にのみ設置されていたが、4階を通じて、学生の社会的視野を広げ、正しい職業観を養う機会を作り、企業・団体には多様な本学生の採用機会を増やすことを目標としている。

フォーラムは、第一部が企業向けの設立報告会で岩崎洋一学長らが挨拶をし、第二部では学生向けの記念講演会、南就助教授(数理学部)による事業説明があった。

青年海外協力隊で海外に派遣された現職教員に経験を語ってもらい、今後の教

廃棄プラスチックゴミ リサイクルして再利用

固形燃料や実験材器に



実験などで使用した研究用廃プラスチックをリサイクルし、二酸化炭素の削減を目指すという試みが生命環境科学研究科を中心に始まった。地球温暖化抑制の具体的な対策として、杉浦則夫教授らが中心となって進めてきたプログラムで、つば市と民間企業の共同事業。将来は茨城県とも協力し、産学官連携事業として取り組む。

本学では年間800トンの廃プラスチックゴミが研究・教育の過程で生じる。規模を拡大させる予定だ。

このサイクルシステムは大学とつば市、民間企業が連携して行う初めての試み。地域が一体となって取り組むことによって、よき実効性が期待される。

現在、環境省に3年間の6億円の予算を申請中。「循環型社会」を作ることによって地域で新たな産業が生まれ、雇用対策にもつながると杉浦教授は言う。

今回の主な改善点は4つある。第一は、カウンターの機能的統合を図り、窓口を一本化したことだ。他大学の図書や文献を複写する際、これまで申し込みの窓

口(レファレンスデスク)と受け取りの窓口(相互利用窓口)が別々だったが、今回窓口を統一し、分かりやすくした。

第二は、窓口の利用時間を拡大した。平日は午前12時から午後1時まで、閉め切っていたレファレンスデスク、ボランティアカウンターを開き、利用できないサービスがあったメインカウンターも、通常のサービスを行う。担当職員の割り当てなど、困難な問題もあったが、サービスの向上を優先した。平日の図書の貸出時間、これまでの午後9時から30分延長した。

第三は、ボランティアアカウンターの増設。図書館内の案内や障害者の補助などを行うボランティアアカウンターは、これまでの階にのみ設置されていたが、4階を通じて、学生の社会的視野を広げ、正しい職業観を養う機会を作り、企業・団体には多様な本学生の採用機会を増やすことを目標としている。

フォーラムは、第一部が企業向けの設立報告会で岩崎洋一学長らが挨拶をし、第二部では学生向けの記念講演会、南就助教授(数理学部)による事業説明があった。

青年海外協力隊で海外に派遣された現職教員に経験

市内でインターンシップを

大学・企業が共同体

つば市内における本学のインターンシップを活性化しようと「つばインターンシップ・コンソーシアム(TIC)」の設立フォーラムが1月17日、大学会館国際会議室で開催された。

TICは、本学の社会貢献プロジェクトの一つとして

11月に企画された。コンソーシアムは共同体を意味する。

TICは大学と、本学学生団体であるつばカバナンスプロジェクト、JEWEL、HANABIの他、つば市、他大学などからなる組織。県や経営者協議会と連携し、学生・企業双

方メリットのあるプログラムを構築していく。

主な事業は学生に対して市内でのインターンシップへの参加を促進し、そのためのサポート、企業からのフィードバック体制を強化しインターンシッププログラムの充実を図ることだ。

TICはインターンシッ

にも増設した。時間中は呼び出しベルが設置されており、ボランティア不在でもすぐにボランティアを呼び出せる。

第四に、視聴覚メディアは相互利用窓口で行ってきたが、その場でできるよ

うに改めた。附属図書館の図書室を拡張し、今後とも投書籍やホームページを使い図書館の改善に、利用者の意見を取り入れた」と話した。

育活動や派遣される教員のために役立てようというシンポジウム「開発途上国における派遣現職教員の活躍——帰国隊員報告会」(主催：文部科学省、本学)が1月7日、東京・千代田区の学術総合センターの一橋記念講堂で開催された。

同シンポジウムには本学の教育開発国際協力センター(CRICE)が協力した。

土浦署と県警少年課は1月24日、県少年環境整備条例違反(不純な性行為)の疑いで、山下浩助教授(人文社会)を逮捕した。

調べによると、山下助教は2004年7月26日午後10時ごろ、つば市内のホテルで、筑西市の無職少女(当時17)が18歳未満であることを知りながら性的行為をした疑い。山下助教は容疑を認めるとい

う。

改善施策を報告

業務改善推進本部

業務改善推進本部(本部長：岩崎洋一学長)が設置されて半年、各部署から具体的な改善施策が報告された。キャリアアドバイザーを置き、就職課と一体となって就職支援業務の企画・実施の充実を図るキャリアセンターの新設、学生証のICカード化などが挙げられている。

改善案は3月下旬までWG(ワーキンググループ、主査：腰塚武志副学長)を中心に関係部署との調整を行い、具体的な実施計画を策定する。4月から本格的な実施にはいる予定だ。

岩崎洋一学長は「誠に遺憾で、強い衝撃を受けている。事実関係を確認した上で厳正に対処したい。教育者がこのような行為を行ったことに対し、大学として心よりお詫びしたい」とコメントを出した。今後、学内に調査委員会を設置し、処分を決める。

現地体験語る

青年海外協力隊 帰国体験報告会

青年海外協力隊で海外に派遣された現職教員に経験

退職教員 これから

今年も62人の教員が退職する。学問だけでなく、人生や社会のあれこれまでいろいろな事を教わった。本学を旅立つ5人の教授に話を聞いた。(本紙・鈴木真理、藤井沙織、社会学類、吉田ちひろ、人間学類)

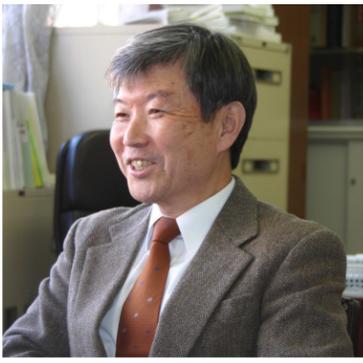
社会見据えた教育を



宮寺晃夫 教授
(教育哲学)

「宮寺マジック」という言葉がある。心理学にしか興味がない学生が、宮寺晃夫教授(人間総合)の授業を受けて、教育学が好きになったり、教育主専攻希望に転じたことだ。人間学類生なら誰でも知っているが、教授は知らなかった。「教育は未来があるんだもの、当たり前だよ」と笑う。宮寺教授は61年に本学の前身である東京教育大教育学部に入学。勉強以外では、そのころ猛威をふるったボリオのワクチンが無償で接種させようと大学周辺で母親たちを集め、厚生省に座り込み、無償接種を勝ち取ったことが忘れられない。当時は「社会をよくしよう」と学生が活動する「少」ことが大学に進学する「少」

授業から新書22冊刊行



今井雅晴 教授
(日本中世仏教史)

た参加者が3カ月後には教授の1人になっていた。そのとき、厳しい指導が自分にプラスになると気づいたのだ。「利益もないのにここまで親切に指導できるのか」と驚いた。「出会いが

ダンスを学問として



頭川昭子 教授
(舞踊)

国語の教師志望から体育教師志望へ。「若い頃の苦労はしておくといい」と頭川昭子教授(人間総合)は明らかに話す。親が体育の教師で、体を動かすことが好きだったた

じ、1年で体育科に転じた。ダンス(舞踊)をするうちに東京教育大体育学部を勧められ、編入試験を受けて合格。その後はダンスの実践と学問に打ち込んだ。問題はダンスを学問としてとらえることを理解してもらったことだった。そのために、100人の意見を統計的に分析し、1人のプロと同じ意見になることを証明しなければならなかった。実験を繰り返して、遂に仮説を証明したのだ。39年間教え続け「名前よりどんな顔をして踊っていたかか思い浮かぶ」という。

世界をフィールドワーク



斎藤功 教授
(地誌学)

「フィールドワークが好奇心旺盛な性格にあっている」と斎藤功教授(生命環境)は言う。大学で地理を学び、「未知の地域を訪れてみたい」との思いから、研究を続けていくうちに専攻分野が決まった。81年に本学に来た、プラジル北東部ノルデステやアメリカ中西部グレート・プレーンズの研究を手掛けた。海外地域研究、とりわけ土地利用の仕方について研究してきた。

最終講義

- ◆鈴木隆久教授「小さな虫の化学信号―化学生態学」 午後1時半、同
- ◆浅野信三教授「美をもとめて―無いものねだり」 早石達司教授、植寛素教授、瀧田宏樹教授、住吉教授は演題未定 3月8日午前10時から、3A402
- ◆西尾建彦教授「安全と安心の化学」 3月6日午後3時、1D201
- ◆システム情報工学研究科「システム情報工学研究科」 4日午後1時半、総合研究棟A公開講義室110
- ◆白井健二教授「農学と環境科学への思い―植物昆虫から再び植物へ」 2月17日午後3時半、2B411
- ◆富田文一郎教授「テルペンから木材接着へ、そして生物資源と環境へ」 2月20日午後3時15分、2B507
- ◆前川孝昭教授「バイオマス研究に始まって、バイオマス研究は続く」 2月17日午後4時、バイオマス研究棟B502・503
- ◆人間総合科学研究科「人間総合科学研究科」 後藤勝年教授「エンドセリンの発見と研究の進展」 2月10日午後4時45分、臨床講義室A
- ◆山根一秀教授「アメリカの医学部入試と臨床教育」 2月7日午後3時15分、臨床講義室A

「筑波の寝技」指導者



中村良三 教授
(柔道)

山口香(女子柔道部監督、榎崎教子(平成7年選手権金メダリスト、谷本歩実(金成16年度同好会)という五輪金メダリストなど育てた女子柔道世界チャンピオンは6人。中村良三教授(人間総合)は指導者として競うなら文句なしにチャンピオンだろう。

柔道競技力向上の研究と選手の指導にあたり、山口香をはじめとする本学女子柔道の歴史を築いた。3人しかいない女子選手を車に乗せてあちこち出稽古に出かけた。「柔道部とのつきあいが自分のすべて。一生懸命教えて、学生が個人チームで優勝して心えくられた。それが励みとなり、68年から85年まで本学女子柔道部の監督を務めた。寝技の基本練習をおろそかにせず、攻め方、守り方を身につけさせ「筑波の寝技」を確立した。自分の体

反射鏡

今月のテーマ
『私の国際交流』

初めの一步 タイ研修で

岡崎智美(自然2年)

筑波にはたくさんの留学生がありますが、自分から積極的に交流をもとめようという人は、外国人と関わるこ

とほないでしょう。

私は昨年の夏休み、大学で募集していたタイ研修に行きました。研修では10日ほどタイに滞在し、自

分の研究課題とタイの文化について学びます。この研修のいいところはタイの学生たちと一緒に生活すること、同年代のタイ人の生活様式や興味などを知ることができるところです。基本的にほったらかしだったので、どこに行くにもタイの

学生に案内してもらいました。学生寮に泊まっていたこともあり、タイの学生と仲良くなれ、日本人同士でかたまることがありませんでした。この研修がきっかけで、筑波にいるタイの留学生とパーティーをときどきしています。

不安な留学生 気軽に友達に

大倉安孝(数理科)

質科学研究科1年

APIC(国際交流を深める会)では留学生との交流のため、色々な企画を立てている。国際交流といっても大きなことではな

いのですが、やってみればそんなことはないと思います。言葉の壁はありますが、コミュニケーションも、国際交流に関心がある人を見え

偏見なくなり 他文化を理解

ワン・イーリン

(人間1年)

日本へ来た時は、あと5年もあると考えていたが、もう3年目を迎えるところ

るなら、ぜひチャレンジしてみたい。楽しいだけじゃなく、日本人としての自分が見えます。

留学生の目



ジェイン・リー

確かにアメリカと日本、そして筑波と故郷ニューヨークは違います。カルチャーショックはありませんが、



環境の違いに驚く毎日

最近、母国から友人が2人来て、自分では忘れていた日本とアメリカの些細なこと、例えば自転車文化、お辞儀、お好み焼きなどの食べ物、すみませんをよく使うことなどに目が行くようになりました。

筑波時評

05年は郵政選挙を経て「小さな政府」スローガンが隔々まで席捲した年となった。ほとんど誰もが特に政府や大政党、メディアは挙って日本政府が大きいこと、非効率であることを疑うことな

小さな政府論を超える 徹底した情報公開が鍵



辻中豊

日本は既に「世界一小さな政府」といってもいい。他方でこれも否定できないことだが「財政赤字は世界で最大」を誇って(？)いる。先進国で最

の国々のまだ半分以下。人不足と公務員合計405万人である。他に特殊法人15万人、認可法人9万人、独立行政法人2万人、国立大学法人13万人などを足し込んで430万人である(人事院「公務員白書 平成16年版」)。

「小さな政府」スローガンが隔々まで席捲した年となった。ほとんど誰もが特に政府や大政党、メディアは挙って日本政府が大きいこと、非効率であることを疑うことな

小の公務員であるのに、なぜ最大の借金を背負っているのか。少なくとも問題は「小さい」「大きい」という規模では決ま

駆け足で日本の政府規模を見ておこう。公務員数の現状は04年末現在で国家公務員97万人、そこ

一般計の8.5%、特別会計の5.3%を占めた。いまでもなく日本は巨額の財政赤字、これは世界一の規模であるが、この日本での問題は、公務員の人数、セクターの規模ではなく、公共投資など予算の不透明な使い方、執行方法、予算の政策別の配分にある。それが放置されたのは基本

好きな日本語
楽しく勉強中
ヴィクトリア・サーニチ(比文特別聴講生)

次号のテーマは「お気に入りの場所」です

連絡先 TEL 0299-85336666 e-mail shinbun@sakura.cc.tskuba.ac.jp

茅葺き屋根の民家守ろう

高エネ研で茅刈り作業



全国の茅葺き屋根の保存、補修を指導している安藤邦廣教授(人間総合学部の学生らは昨年12月中旬の4日間、つくば市大穂の高エネルギー加速研究機構の粒子加速器「トリスタン」の敷地内で、茅の刈り取り作業を行った。写真、年々減少の一途をたどっている貴重な茅場保存のためにも安藤教授は「毎年の継続事業として取り組みたい」と語った。

本学生ら30人参加

八郷町の民家5軒補修へ

茅刈りに参加した釜床美也子さん(芸術研究科2年)は、「茅も大切に扱わないと、茅を大切に扱う八郷の人々の姿が印象的だった」という。刈り取った茅は、4日間計900束。八郷町にある民家5軒の屋根を部分的に補修するために使われる。1軒の屋根を全部葺き替えるには2400束ほど必要だ。八郷町には、40軒ほど茅葺き屋根の民家が残り、茅刈りはこれからも毎年継続して行われる予定だ。

現在、茅葺き屋根の住宅は日本に10〜20万軒しか残っていない。茨城県内には八郷町のほか、大子町、笠間市にも残っている。歴史があり、文化財としても貴重な茅葺き屋根の民家を守ろうと、八郷町の人々は活動してきたが、屋根を修理する技術者が減り、良質な茅場自体も減っている。安藤教授は30年近く茅葺き屋根の民家の研究を行っている。「興味を持った学生には、ぜひ参加して欲しい」と語った。

水戸芸術館ライトアート

色彩のドロップス



現代アートの殿堂として知られる水戸芸術館とシンボルタワーがライトアップされ、さまざまなイルミネーションで装いを一新した。光の芸術家といわれる逢坂卓郎教授(人間総合学部の学生31人が、昨年度にふさわしい展覧会になった。逢坂教授は芸術館の壁面をライトアップし、そこに学生ひとり一人が好きな異なる作品を展示した。芸術館正面の木には、バルーンに電球を入れた光マフラーが巻かれていたり、噴水の中には光ファイバーと水面の揺れを利用して、雫のような光が見えたりする。色とりどりのドロップスのようだ。

10月末から作業をすすめた。石原和弘さん(芸術学3年)は「展示するまで感じがわからなかったのが不安だった。水戸芸術館で作品を展示できる機会に恵まれ、水戸の市民とも交流が図れた」と話した。

原点

GEN-TEN

ふりかえってみると、私が自分の研究分野を決めるにあたっては、いくつかの契機があった。

高等学校では後に富山大学教授となった北林吉弘先生に地理を教わった。自らの研究成果やアイデアを取り込み、大風呂敷を敷いた授業は非常に魅力的であった。私は地理の試験の点数だけが妙に良かったため、先生に目をかけてもらい、その甘言にのせられて、当

時日本で最大の地理学教室があった東京教育大学をめぐることができた。郷里の富山の山や平野や海を見ているうちに、このような自然環境がどのようにしてできるのか、がかなえられる雰囲気ではなかった。

三先生と廊下ですれ違った時に、あのレポートはよかったと大変ほめられた。これが人文地理学を指すきっかけとなった。大学院に進学したのには、学園紛争のため、あ

作「バナナ文化、カナダ、持続的農村」などの研究を続けたが、考えてみると偶然に与えられたチャンスや他人の助言が契機となっていた。大学院に進学したのは、学園紛争のため、あ

様々な人々が交流する一方、紛争や摩擦がおき、また地球環境問題が深刻になっていく。このように生活形態と環境を理解しようとする人文地理学研究が重要になってきており、私も何らかの形で貢献したいと願っている。

たばやし・あきら 生命環境科学研究科地球環境科学専攻教授。1948年生まれ。東京教育大学大学院理学研究科博士課程退学。専門は人文地理学。

他人からもらったチャンス

生活形態と環境の理解を

を明らかにする地形学をやりたいと思い、大学に入りました。しかし現実には、地形学を含む自然地理学は、精緻な自然科学としての道を歩み始めており、私のようなぼんやりとしたロマンチックな夢

た。3日間都市や農村、漁村を見学し、最後の1日は自由調査となった。私は白根漁業協同組合の事務所まで半日粘り、漁業や漁場、漁村の生活のことをレポートにした。数日してから担当の山本正

まにも勉強しなかったのを、補おうと思ったからである。その後、大学院での農業水利や伊豆の沿岸集落の研究、大学の教員になってからは農山村の生活形態や農家の兼業化、稲

お恥ずかしい気もするが、むしろ、そのような時に、まずはまともな考え、ともあれ正面から取り組んでみたことが、研究の継続と深化に結びついたものと考えられる。現在、国際化が進み



田林 明



笹本 純

人間総合科学研究科の芸術学専攻のうち、洋画・日

生の本質を問うマンガ

夕風の街 桜の国

手、学生や身近な人たちが無理やり読ませ、感動の押し売りをするという次第であった。しづぶ読み始

この史代著 加えて単行本化する。これは文化庁メディア芸術祭マンガ部門で太賞を受けるなど、多くの支持を集めることになったのである。つまりこの本は、市場操作や権威の後押しなど、この本では、原爆や戦争の悲惨さが直接的に語られることはない。ただ、巨大な暴力によって私たちが失うものが何であるかをしっかりと見つけ、それをたんとと描く。そこにはもちろん反戦の訴えがあるが、さらに普遍的な「生」の本質に関わる問いかけが含まれている。

「院生の作品に圧倒的な力を感じた」と話した。医学の白川さん、福原さんが受賞したJASSOの優秀学生顕彰。経済的理由など修学に困難な条件を抱えながら専攻分野の学業、文化芸術活動、スポーツ活動、社会貢献活動で優れた業績を上げた学生を顕彰する優秀学生顕彰(主催)日本学生支援機構(JASSO)、理事長北原保雄前学長の表彰式が東京・市ヶ谷で行われ、本学からは白川純さん(医学6年)が大賞を、福原慎二さん(同)が奨励賞をそれぞれ受賞した。

同賞の大賞となるのは、大学第3学年以上に在籍し、機構の奨学金を受給している、在学中の業績が規定の条件に該当する学生。応募には学長の推薦が必要。今年度は全国で大賞7人、優秀賞19人、奨励賞25人の計51人が表彰され、奨励金と記念品が授与された。

JASSOは旧日本育英会や留学生公益法人が移行・統合した独立行政法人。白川さんは免疫学に関する論文が日本免疫学会の英語論文誌に掲載されたこと、福原さんは米国生理学会主催の「Experimental Biology 2005」で研究成果を発表したことが認められた。

北京五輪へ 希望と決意

数々の記録を残したアスリートたちが今年も巣立っていく。けが、スランプ、仲間、さまざまに想いを胸に、いま何を思うのか。4年間を振り返り、新たな舞台への希望と決意を聞いた。



大橋祐二 (陸上)

ライバルはアテネ金の劉翔 けが、スランプ克服して飛躍

陸上競技部110メートルハードルのエース、大橋祐二(体育4年)が卒業する。2001年、13秒98の高校記録を引っ提げ入学した。高校3年のインターハイ決勝で出したこの記録は、高校生初の13秒台として注目されたが、入学後はスランプやけがに苦しむいま、自己ベストを更新して新天地に飛び出す。大橋にとって転機になったのは、1年の7月にジャマイカで行われた世界ジュニアだ。国内の選考会を14秒05の1位で通過。万全の状態で臨んだが、長旅の疲労に、向かい風4メートルという悪条件も重なって予選落ち。世界のレベルを痛感した。その後は苦みの連続だった。9月に行われたインカレも、準決勝敗退。「歯車も合っていない」と当時を振り返る。実力のなさを感ずき、冬期練習で筋力トレーニングなど、基礎から徹底的にやり直した。迎えた2年のインカレは、自己記録を更新し、13秒89で優勝。スランプを克服した。続く3年はけがに泣かされ、苦しい日々を送ったが、4年の昨年4月には13秒57と自己記録を更新。10月には国体で優勝するなど調子は上向きだ。普段は真面目な22歳。授業で学んだことは積極的トレーニングに取り入れ(関田航二体育専門学群)



藤本淳吾 (サッカー)

1月20日、Jリーグ1部清水エスパルスの新体制発表会見。今季の背番号が発表された。注目を集めたのは昨期引退した元日本代表、澤登正明の「10番」の行方だった。クラブがその「10番」を与えたのは新人の藤本淳吾(体育4年)。ルーキーがいきなりエースナンバーをつけるのは異例のことだ。清水首脳陣の期待のほどがうかがえる。藤本は高精度の左足を誇る攻撃的MF。蹴球部の吉岡宏監督は「状況を見て判断できる、非常に賢い選手」と評する。鹿島などJ1の6チームが争奪戦を展開した今季の目玉選手だ。桐光学園高時代は年代別代表の常連だったが、J1

J1に背番号「10」でデビュー

高精度の左足に高まる期待

クラブへの入団は叶わなかった。J1でも充実など魅力があった。入りたかった」と進学を決意。進学先は「筑波しか考えなかった。スポーツしていくものタイトル獲得の先端研究が行われ得に貢献してきた。昨年3月、藤本はJリーグの公式戦に出場できる特別指定選手に承認された。6月11日のナビスコカップ第11節清水一名古屋戦で先発出場。「フィジカルや技術に差はない。足りないところを補いながらやっていくは大丈夫」と手紙をもらった。吉岡監督は「プロのシビアさに触れて、チームメイトに対する要求のレベル



岩永生 (ハンドボール)

男子ハンドボール部は昨年インカレ2連覇を果たした。エースとして活躍した岩永生(体育4年)は実業団日本一の大崎電気入りを決め、大学生活を「筑波に入ってよかった」と振り返る。高校時代は1年のインターハイベスト8を皮切り、3度の全国準優勝を経験。3年の夏、インターハイ優勝を果たした。その後「実業団と教師と、両方選べる道だから」と本学に入学した。将来も見据えての決断だった。

実績ひっさげ大崎電気へ

「世界一の牽引車」を期待

入学当初は苦労した。「今年インカレ2連覇を果した。入らない。このままじゃ通用しない。1年の春季リーグでは高校とのレベルの違いに戸惑った。その冬、大学の環境に慣れ始めた岩永生はインカレ準優勝を果たした。だが翌年、けがで欠場。チームもベスト8で敗退した。そのとき「エースとしての自覚が芽生えたのだ」と大崎電気三監督(人間総合・教授)は分析する。3年では見事に優勝。「上級生が引っ張ってくれた」と言う。4年になって「優勝したいという思いがチームにみなぎった」。春季リーグは4位に終わったが「負けた試合で課題を見つけ、一つ一つ解決していった」と

決意の階級変更が好結果 北京五輪の最有力選手へ

入学当初は苦労した。「今年インカレ2連覇を果した。入らない。このままじゃ通用しない。1年の春季リーグでは高校とのレベルの違いに戸惑った。その冬、大学の環境に慣れ始めた岩永生はインカレ準優勝を果たした。だが翌年、けがで欠場。チームもベスト8で敗退した。そのとき「エースとしての自覚が芽生えたのだ」と大崎電気三監督(人間総合・教授)は分析する。3年では見事に優勝。「上級生が引っ張ってくれた」と言う。4年になって「優勝したいという思いがチームにみなぎった」。春季リーグは4位に終わったが「負けた試合で課題を見つけ、一つ一つ解決していった」と



佐藤愛子 (柔道)

高校時代は「自分も世界で戦いたい」と思い佐藤愛子(体育4年)は入学した。柔道は個人プレーで結果が全て。センスは無いけど気持ちでは誰にも負けな」と力強く言う。1年から3年まで福岡国際52kg級で2度優勝、全日本選抜体重別選手権優勝、フランス国際3位入賞と輝かしい成績を残した。ところが、北京五輪の重要な選考資料となる昨年2月のフランス国際で入賞を逃した。「減量が難しくなった。自分の体がいくことをきかない」。焦燥感から4月に52kg級から57kg級への階級変更をした。それが功を奏し、同年11月の講道館杯、12月の福岡国際と続けて優勝した。階級を上げて2大会で2冠を多量教育成している了徳寺学園(東京)に就職も決まった。「柔道家として結果を残さねばという自覚を持って、歩んでいきたい」と意欲を見せる。(藤井沙織 社会学類)

巣立つアスリート

堺ブレイザーズに入団

Vリーグで光る存在感



石島雄介 (バレーボール)

昨年12月の全日本イン 連続8度目の優勝に導いたカレで男子バレー部を2年 石島雄介(体育4年)。自

身も最優秀選手賞に選ばれた。輝かしい成績を収めた。「日本一を目指す大先輩へ。石島にとつて本学は念願の入学だった。あだ名は「ゴツ」。身長197cm、体重100kgと日本人離れした体格。最高到達点は340センチ。サーブレシーブを見事に決めるなど器用さも持ち合わせている。

「勝つためにはどうすればいいか」を常に考えるようになったのは、2年の全日本インカレ後だった。3対2で東海大に敗れ、7連覇を逃した。連勝続きで勝つことが当たり前だった当時、スパイクフォームの確認など細かなチェックを怠っていた。「何も考えず、ただ上がってきたトスをうてばいい」という感覚で練習

「一番大事なのは気持ち。勝つたいという気持ちは誰にも負けない」と言い切る。昨年、8月のユニバーシアード出場。(村上恵子) 石島は今年1月からVリーグ、堺ブレイザーズに入団。すでに6試合もスタメンで出場するなど存在感をアピールしている。都沢凡夫監督(人間総合・教授)は「Vリーグで十分通用する選手。今後日本代表の中心選手として活躍してほしい」と期待をよせる。目標は「年後の北京オリンピック出場だ。」(村上恵子)



金属よりずっと軽く、導電性が高く、磁石にもなり、薬としても利用できる。そんな魔法のような物質を生む可能性を秘めた金属内包フラレンの研究に注目が集まっている。

金属内包フラレン

応用性高い魔法の物質 画期的大量合成に成功

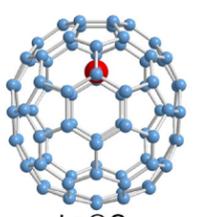
フラレンは、炭素原子が60個以上集まった球状分子のことだ。代表的なのはサッカーボールの形をしたC60で、1985年にアメリカ人化学者らによって発見された。

品としての応用や、エイズウィルスの増殖を抑える抗HIV剤として実用化も期待されており、今後さまざまな分野への応用が期待されている。

「中に入られるか、それか」そんな思いつきから91年、アメリカ人化学者らによって発見された。フラレンの中は真空だ。「中に入られるか、それか」そんな思いつきから91年、アメリカ人化学者らによって発見された。

「秘密の可能性を持つ金属内包フラレンをもっと研究したい」。そう考えた土屋講師らは、まず大量合成に取り組んだ。金属内包フラレンは、金属を混ぜた炭素棒を放電・気化させ、それ

を調べる以上の研究は行ななかつた。土屋敬広講師(数理工学)は、赤坂健教授(同)の研究室で、最先端を行く金属内包フラレンの研究に取り組んでいる。平成17年度三菱化学研究奨励基金の一研究助成対象者に選ばれた。



La@C82

日本一のストロークに磨き 「万年3位」から北京へ一歩



宮下純一 (水泳)

2005年は宮下純一(体育4年)にとって飛躍の年となった。4月の日本選手権では50、100メートルで25秒得。快挙の連続に「自信に

「泳速は日本一」と自他共に認める。長身に加え、上半身全てを使いきれる技術力が「日本一長いストローク」を生む。国際大会を通じて「バサロ以外なら誰にも負けぬ」という手応えをつかんだ。

卒業生からの手紙

2005年、九州の田舎から東京の大学に行く感覚で入学したため、最初はかなりの戸惑いがありました。

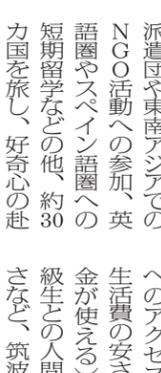
くまも様々な異文化交流を楽しみました。今振り返ってみると、充実した大学生活を送れたのは、留学生が多いこと、海外



失敗を恐れず挑戦しよう 三浦友紀さん

在学中は意識しませんでした。が、精神的な足かせがなく自由ないろいろなことに挑戦出来る時間は、やはり大学時代だけだったと実感しています。失敗を恐れず、時間を大切に、自分の引き出しを増やしてみたい。

在学中の中国留学から、まると「抗日戦争勝利50周年(日本では終戦50周年)」で反日世論が盛り上がり、以前から興味があった中国へ留学を決意しました。



派遣団や東南アジアでの生活費の安さ(興味にお金を使える)、教官・同級生との人間関係の濃密さなど、筑波という環境

茗溪山脈 体育・スポーツ列伝

功力野球



3度目の首都リーグ制覇の瞬間、スタジアムがわいた

1987年秋、首都大前身「東京高等師範学校」を制した野球部は、続く明治神宮大会でも優勝し、大学日本一に輝いた。国立大として、後にも先にも例のない快挙だった。野球部の

前身「東京高等師範学校」が創設されたのは1896(明治29)年だから91年後のことになる。首都リーグでは1990年春、98年秋と2度優勝し、このこ

る筑波野球部は黄金時代だった。監督は功力雄助教授(現本学名誉教授)。功力野球は「自分で考え、自分で行動できる」選手の獲得から始まった。功力監督が目付けたのは、文武両道を掲げる全国各地の県立進学校。野球部の情報機関誌「茗溪ベースボール」や推薦入試の願書を県立高に配布し、「指導者になるなら筑波へ」と全国ローラー作戦を展開した。神宮大会の優勝投手になった渡辺正和も全く無名の県立佐賀西高出身。渡辺は社会人の東京ガスを経て福岡タイエーホークス(現ソフトバンク)で活躍した。

功力監督は、野球部父母用の広報誌「父母会報」も作った。77年、体育専門学群入試に「野球」が受験科目となったことも追い風になった。この年以降、それまでの3-4倍に相対する25人前後が毎年入部してきた。80年には野球場が建設され

乗効果から生み出されるパワーが不可欠だった。功力監督は言う。各選手の課題を明確にするため「技能等進捗表」を制作した。ポジション編、攻撃編、守備編などパターン別に、それぞれ約50

感からくるパワー不足を克服するため、あえて敵地の試合を望んだ。功力監督にとって明治神宮大会は、やはり忘れられない試合の一つだ。参加10校中、国立校は本学のみ。左腕、渡辺を中

決勝の対法政大戦。9回まで3-3とつれこみ延長戦へ。試合を決めたのは当時1年の梶田茂生(日本生命)だった。10回裏一死、梶田会心の一打はライトスタンドへ飛び込んだ。法政に4-3のサヨナラ勝ち。「ボールが見えなくなると思ったら梶田がガッツポーズをしている。何が起きたか分からなかった」と功力監督はうれしそうに振り返る。

こうした筑波野球部は「功力野球」と呼ばれた。精神論が横行していた大学野球の中で、相手の情報を徹底的に収集、分析するデータ野球を取り入れ、選手の課題を明確にしていた功力監督の功績は大きい。(本紙・村上恵子「社会学類」)

【個人の部】
酒井智美(アイススケート部)第60回国体成年女子3000メートルリレー優勝
薬師寺巨久(柔道部)全国体育系学生体重別選手権81キロ級1位
秋本啓之(同)全日本学生体重別選手権66キロ級1位
福見友子(同)全日本学生体重別選手権48キロ級1位
杉本美香(同)全日本学生体重別選手権78キロ級1位
宮下純一(水泳部)日本選手権200メートル背泳ぎ優勝
安部智絵(同)日本選手権200メートル背泳ぎ優勝
佐藤佑樹(同)日本学生選手権200メートル平泳ぎ優勝
細川雄悟(スキー部)全日本学生アルペンスプリング大会GS2戦1位
檜皮貴子(体操部)第6回世界ラト競技選手権跳び越し部門優勝他
吉田望(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
福原一郎(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
森口更紗(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
古屋欽司(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
粕尾将一(同)第1回全日本オープンスキップ選手権個人総合優勝他
木村綾香(ライフェービング部)第20回全日本学生選手権女子CCRコンテスト優勝
宮沢麗(同)第20回全日本学生選手権女子CCRコンテスト優勝
成迫健児(陸上競技部)国際クラブリ大会400メートルH1位他
長谷川充(同)第74回日本学生対校選手権4×400メートルR1位
庄形和也(同)第74回日本学生対校選手権4×400メートルR1位
井上佑佑(同)第74回日本学生対校選手権4×400メートルR1位
志鎌秀明(同)第74回日本学生対校選手権走り幅跳1位
大島雄治(同)第74回日本学生対校選手権十種競技1位
南野弥生(同)第74回日本学生対校選手権高跳1位
狂久慧(同)第74回日本学生対校選手権三段跳1位
中野美沙(同)第74回日本学生対校選手権やり投げ1位
増谷鈴子(カヌー部)全国カヌー選手権女子カヤックシングル500メートル1位他

【団体の部】
バドミントン部 全日本学生選手権女子団体優勝
男子バレーボール部 2005東西インカレ男子主座決定戦inつくば優勝
カヌー部 第41回全日本学生選手権女子総合優勝
【部会奨励賞】 合気道部、卓球部
【同好会奨励賞】 バレーボール同好会
【運営委員奨励賞】 讃岐温子(鹿島神流武道部) 松本拓矩(卓球部)
長野寛(サイクリング部) 富田元将(合気道部) 桑田牧子(女子アイスホッケー部)

2005年度体育会賞

【個人の部】
酒井智美(アイススケート部)第60回国体成年女子3000メートルリレー優勝
薬師寺巨久(柔道部)全国体育系学生体重別選手権81キロ級1位
秋本啓之(同)全日本学生体重別選手権66キロ級1位
福見友子(同)全日本学生体重別選手権48キロ級1位
杉本美香(同)全日本学生体重別選手権78キロ級1位
宮下純一(水泳部)日本選手権200メートル背泳ぎ優勝
安部智絵(同)日本選手権200メートル背泳ぎ優勝
佐藤佑樹(同)日本学生選手権200メートル平泳ぎ優勝
細川雄悟(スキー部)全日本学生アルペンスプリング大会GS2戦1位
檜皮貴子(体操部)第6回世界ラト競技選手権跳び越し部門優勝他
吉田望(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
福原一郎(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
森口更紗(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
古屋欽司(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
粕尾将一(同)第1回全日本オープンスキップ選手権個人総合優勝他
木村綾香(ライフェービング部)第20回全日本学生選手権女子CCRコンテスト優勝
宮沢麗(同)第20回全日本学生選手権女子CCRコンテスト優勝
成迫健児(陸上競技部)国際クラブリ大会400メートルH1位他
長谷川充(同)第74回日本学生対校選手権4×400メートルR1位
庄形和也(同)第74回日本学生対校選手権4×400メートルR1位
井上佑佑(同)第74回日本学生対校選手権4×400メートルR1位
志鎌秀明(同)第74回日本学生対校選手権走り幅跳1位
大島雄治(同)第74回日本学生対校選手権十種競技1位
南野弥生(同)第74回日本学生対校選手権高跳1位
狂久慧(同)第74回日本学生対校選手権三段跳1位
中野美沙(同)第74回日本学生対校選手権やり投げ1位
増谷鈴子(カヌー部)全国カヌー選手権女子カヤックシングル500メートル1位他

男子2連覇8度目V

全日本インカレ

宿敵東海大を圧倒

女子準優勝 主力がけが、逆転負け



2連覇の瞬間、コートに喜びが弾けた(東京体育館で、提供：伊藤健士さん)

学生日本一を決める全日本バレーボール大学選手権大会が昨年12月5-11日、東京体育館(東京渋谷区)をメイン会場に行われた。男子は3-1で宿敵東海大を下し、2年連続8度目の優勝を果たした。女子は青山学院大に1-3で敗れ、準優勝に終わった。

男子は第1セット開始直後、東海大にリードを許した。しかし東海大はサーブミスから崩れ、本学は丸山祥二(体育3年)、エース石島雄介(同4年)のサーブレシーブ、レフト三上治郎(同3年)、ライト志賀宗(同)の攻撃で猛追。第1セットを25-17点で奪った。第2セットも、終始リードを保ち25-16と大差をつけた。ストレート勝ち

かと思われた第3セット、点差が開かないまま、両チーム12点となったが、後半、本学のサーブミスが続き、東海大に5連続得点を許し、セットを奪われた。第4セットはセンター石川健(同)、丸山のブロックが何度か決まった。最後は第9本目となる丸山のブロックが決まり、セットカウント3-1で試合を制した。試合後、都沢凡夫監督(人間総合・教授)は「石島を中心に歴代3本の指に入るよきまとまったチーム」と語った。

女子は、大会前に白丸寿美(体育4年)が捻挫、木村希が(同3年)右手の親指を骨折するなど負傷者が続出、不安を抱えての試合だった。

第1セットを29-27の僅差で先取したものの第2セット以降は落としてセットカウント1-3で敗れた。

中西康己(人間総合・講師)監督は「白丸らの怪我が続いた。決まると思っていたスパイクがほとんど拾われてしまった。青学のレシーブ力に負けた」と苦澁の表情を見せた。

個人賞は次の通り。
【男子】最優秀選手賞 石島雄介(体育4年)▽ブロック賞 丸山祥二(同3年)▽サーブ賞 石島雄介▽セッター賞 菅直哉(同2年)▽レボ賞 永野健(同2年)

【個人の部】
酒井智美(アイススケート部)第60回国体成年女子3000メートルリレー優勝
薬師寺巨久(柔道部)全国体育系学生体重別選手権81キロ級1位
秋本啓之(同)全日本学生体重別選手権66キロ級1位
福見友子(同)全日本学生体重別選手権48キロ級1位
杉本美香(同)全日本学生体重別選手権78キロ級1位
宮下純一(水泳部)日本選手権200メートル背泳ぎ優勝
安部智絵(同)日本選手権200メートル背泳ぎ優勝
佐藤佑樹(同)日本学生選手権200メートル平泳ぎ優勝
細川雄悟(スキー部)全日本学生アルペンスプリング大会GS2戦1位
檜皮貴子(体操部)第6回世界ラト競技選手権跳び越し部門優勝他
吉田望(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
福原一郎(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
森口更紗(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
古屋欽司(同)第1回全日本学生ラト競技選手権規定演技の部団体総合1位
粕尾将一(同)第1回全日本オープンスキップ選手権個人総合優勝他
木村綾香(ライフェービング部)第20回全日本学生選手権女子CCRコンテスト優勝
宮沢麗(同)第20回全日本学生選手権女子CCRコンテスト優勝
成迫健児(陸上競技部)国際クラブリ大会400メートルH1位他
長谷川充(同)第74回日本学生対校選手権4×400メートルR1位
庄形和也(同)第74回日本学生対校選手権4×400メートルR1位
井上佑佑(同)第74回日本学生対校選手権4×400メートルR1位
志鎌秀明(同)第74回日本学生対校選手権走り幅跳1位
大島雄治(同)第74回日本学生対校選手権十種競技1位
南野弥生(同)第74回日本学生対校選手権高跳1位
狂久慧(同)第74回日本学生対校選手権三段跳1位
中野美沙(同)第74回日本学生対校選手権やり投げ1位
増谷鈴子(カヌー部)全国カヌー選手権女子カヤックシングル500メートル1位他

皇后杯

デンソーに惜敗、ベスト16

バスケット

社会人、学生、地方代表が日本一を争う第72回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会は1月2日(9日)まで国立代々木競技場(東京・渋谷区)、東京体育館(同)で開催され、本学女子はベスト16に食い

込んだ。大会は、富士通が初優勝した。

2日の初戦、インカレ3位の本学は桜田佳恵(体育3年)、宇佐美里菜(同4年)

がポイントをかきね、岐阜女子高を69対57で下した。

3日の2回戦はデンソー戦。決めなければならないシュートにミスが出た。キーン戦には勝てなかったが、残念。4年生は有終の美を飾れたのではないかと振り返った。

12点及ばず、72対60で敗退した。

試合後、内山尚樹監督(人間総合・助教授)は「デンソー戦には勝てなかったが、残念。4年生は有終の美を飾れたのではないかと振り返った。」

秋本、強敵・内柴を破り優勝

岡田監督以来20年ぶり

残り1分3秒の奇襲逆転

嘉納杯国際大会

柔道

オリンピックや世界選手権への登壇とされる嘉納杯国際大会が1月14、15の両日、日本武道館(東京・千代田区)で行われ、40カ国・地域から169人の選手が出場した。本学からは60kg級に平岡拓晃(体育3年)、66kg級に秋本啓之(同2年)、73kg級に金丸雄介(体育研究科2年)の3人が日本代表として出場。秋本はアテネ五輪メダリストの内柴正人(旭化成)を破り、優勝した。嘉納杯で本学生が優勝したのは1986年に現柔道部監督の岡田弘隆講師(人間総合)が優勝して以来、20年ぶり2度目。父の秋本勝則さん(当時・光洋産業)も第1回大会で優勝しており、同大会初の親子優勝となった。金丸は3位に入賞、平岡は3位決定戦の準々決勝で敗退した。

表として出場。秋本はアテネ五輪メダリストの内柴正人(旭化成)を破り、優勝した。嘉納杯で本学生が優勝したのは1986年に現柔道部監督の岡田弘隆講師(人間総合)が優勝して以来、20年ぶり2度目。父の秋本勝則さん(当時・光洋産業)も第1回大会で優勝しており、同大会初の親子優勝となった。金丸は3位に入賞、平岡は3位決定戦の準々決勝で敗退した。

秋本は今大会、持病のせいで体調が悪かった。息が上がりやすい状態で、これまでの試合よりも肩で息をする場面が多く見られた。「得意の背負い投げが決まらなかった」といい、背負い投げでの一本勝ちを逃がしたが、3回戦でツァガンバードル(モンゴル)に袖釣ひ掛けで一本勝ち、準決勝でイ・ジミン(韓国)に背負い投げ技ありで優勢勝ちし、決勝に進出、念願

の内柴との対戦を迎えた。決勝は試合開始から内柴のペースで進んだ。「力で押しつけていた」という秋本は残り3分20秒、消極的として指導を取られる。残り1分3秒、秋本は投げると見せかけて内柴の足を刺されたという。

金丸は順調に勝ち進み、準決勝に進出したが、ブルイレ(イタリヤ)に敗れ、3位決定戦に出場。高松正裕(旭化成・平成16年度体育専門学群卒)とともに3位に入賞した。昨夏に肘

の手術を受け、万全ではなかったが、今大会について「内容的には悪くない」と話す。「今回の試合を次に

つなげるためにも、肘を万全にしたい」と、意欲を見せた。ブルイレは73キロ級で敗れ、入賞を逃した。「外

平岡はロビカウ(ペラル)に1回戦で敗れ、3位決定戦に出場。準々決勝で敗れ、入賞を逃した。「外

同日、無差別級に出場した秋本は3位に入賞した。3回戦、秋本は延長で白石のどか(埼玉栄高3年)に優勢負けして、敗者復活戦に回った。開始3分29秒、ドゥエニヤス(キューバ)に上四方固めを決めた。

試合後、岡田監督(人間総合・講師)は「佐藤は北京に向けていいスタートができた」と振り返った。



一転、劣勢に回る内柴(下)を攻める秋本(上) (提供：共同通信社)

関東女子新人戦

剣道

国士館大破りV6

佐久間に優秀選手賞

第6回関東女子学生剣道新人大会が昨年12月10日、東京武道館(東京・足立区)で行われた。関東の74大学が1チーム5人で戦う。6連覇のかかった本学女子剣道部は、順調に勝ち上がった。決勝で国士館大を3勝1敗1分で破り、優勝した。大将・佐久間陽子(体育2年)は、優秀選手賞に選ばれた。

6連覇のかかった今回、ライバルは全日本女子学生剣道優勝大会で優勝し、ベストメンバーで出場した清和。その清和が初戦の平成国際大戦で力を出し切れなかったまま敗退すると会場からどよめきが起った。

本学は、3回戦の埼玉大戦こそ、2勝1敗2分と苦戦したが、準決勝の国学院大戦では、4勝1分で圧勝するなど好調だった。決勝の国士館大には、昨年、本学の男子、女子共ごとく敗れていた。意識するなど言っても無理だろうと有田祐二監督(人間

総合・講師)も「意識していけ」とアドバイスを送ったという。試合は本学の優勢で進み、2勝1敗1分で迎えた大将戦。佐久間陽子(体育2年)は吉田佳世と対戦。開始56秒で小手を取られたが、1分19、25秒と立て続けに面が入り、勝利を決めた。試合終了後、選手たちは応援に来ていた先輩らと喜びを分かち合った。佐久間は「ひとり一人が力を出したから優勝できた」と語った。



新鋭・菊池愛力(体育1年)も活躍した

福岡国際

のびのび佐藤2冠

杉本は準優勝と3位

05年最後の女子世界最強を決める第23回福岡国際女子柔道選手権大会が昨年12月10、11の両日、福岡国際センター(福岡市博多区)で行われた。日本勢が大会史上初の全階級制覇を成し遂げた。

11日の、57kg級決勝。佐藤は、4月から階級を上げ、11月の講道館杯に続き、2冠を達成した。決勝は最大のライバルである帝京の立山真衣(東海大)と対戦し、技ありをとられ敗退した。

連発し、宮本がこれをつぶして十字固めを狙う展開となったが、宮本から指導3つを奪って優勢勝ちし、2年ぶり3度目の優勝をばたかした。試合後、佐藤は「ほっとしている。まだまだ立ち技がきれない。もっと技をみがいて練習していきたい」と話した。

同日、無差別級に出場した杉本は3位に入賞した。3回戦、杉本は延長で白石のどか(埼玉栄高3年)に優勢負けして、敗者復活戦に回った。開始3分29秒、ドゥエニヤス(キューバ)に上四方固めを決めた。

試合後、岡田監督(人間総合・講師)は「佐藤は北京に向けていいスタートができた」と振り返った。



たどけろ」と話。福岡県出身で、3人兄弟の末っ子。兄と姉の影響で、小学校1年の時に、剣道とテニスを始めた。テニスでも小、中学と東北大会で優勝するほどの腕前だった。「同じ個人種目でも、剣道にはみんなと一緒に戦っていると

北大会で優勝するほどの腕前だった。「同じ個人種目でも、剣道にはみんなと一緒に戦っていると

たどけろ」と話。福岡県出身で、3人兄弟の末っ子。兄と姉の影響で、小学校1年の時に、剣道とテニスを始めた。テニスでも小、中学と東北大会で優勝するほどの腕前だった。「同じ個人種目でも、剣道にはみんなと一緒に戦っていると

女子新人戦で6戦全勝

佐久間陽子(体育2年)

「攻めて攻めて攻め続ける。女子剣道部の佐久間陽子(体育2年)は自分の剣道をその表現する。剣風は基本に忠実な正剣。高い身体能力を生かした飛び込み面が武器で、「すごいところから飛んでくるね」と周囲を驚かせる。有田祐二監督(人間総合・講師)は「相手が攻めようとする出端を察して技を決める『先をかける』能力が優れている」という。

強豪校が出揃った昨年12月の関東女子剣道新人大会。周囲は優勝をおぼろげにしていた。大将として奮起し、6戦全勝。優勝の原動力となった。優勝のかかった国士館大戦にも、「全然緊張しなかった。自分の実力は出せ

「攻めて攻めて攻め続ける。女子剣道部の佐久間陽子(体育2年)は自分の剣道をその表現する。剣風は基本に忠実な正剣。高い身体能力を生かした飛び込み面が武器で、「すごいところから飛んでくるね」と周囲を驚かせる。有田祐二監督(人間総合・講師)は「相手が攻めようとする出端を察して技を決める『先をかける』能力が優れている」という。

強豪校が出揃った昨年12月の関東女子剣道新人大会。周囲は優勝をおぼろげにしていた。大将として奮起し、6戦全勝。優勝の原動力となった。優勝のかかった国士館大戦にも、「全然緊張しなかった。自分の実力は出せ



4月から3年。「もっと」ともっと気持ちを前面に出すようなチームにしていきたい」と上級生としての自覚も十分だ。(本紙・兵庫義夫Ⅱ図書情報報専門学群)

正剣で美しく攻め抜く

本学生の交通事故

日常生活に自動車やバイク、自転車が必要な学生は、昨年度は交通事故死者は278人、全国で6番目に多い数字だった。人口10万人当たりでみると、9.34人でワースト2。地域的には、けつして安全な環境とはいえない。

学生生活課がまとめたところによると、本学生が関係した交通事故は04年度42件、重軽傷者54件、05年度41件、同53人、06年度44件、同67人。死亡事故はゼロ件だが、件数は横ばいで推移し、いっそう減る気配はみられない。こうした状況を背景に「事故ゼロ」を目指すプロジェクトが04年度にスタートした。

ズームアップ

昨年4月は37件と多発 目立つ脇見、安全不確認

同プロジェクト推進にあたって協力関係にあるつくば中央署は、本学生が関係した交通事故を分析し、筑波大生に特有の傾向を指摘している。大学に報告された事故を中心にまとめた学生生活課の統計より件数が多く、より実像に近いデータがあるからだろう」と関係しているという。

来春に学生宿舎共用棟の売店業務に参入するホットスパ(本社土浦市)は、現在開店時期を調整している。



学内では自転車と自動車の接触事故が多い

サービス後 厚生池 改修工事積み残し 新メニューに手応えも

学生宿舎の浴場や食堂業務など厚生サービスに新しい業者が参入して2カ月半が経った。営業時間の延長や改修工事などサービス改善を進めているが、残された課題も多い。

吉池サービスが撤退した翌日にEXサービス(本社千葉葉野田市)が参入した宿舎浴場では年末に3日間休業し、脱衣所や浴室の改修工事を行った。浴室のタイルを貼り替え、シャワーの蛇口を修理、浴槽用給湯の蛇口を改良した。休業が3日間しか認められなかったため「タイルの目地を埋めてはがれにくくする工事が残っている」と、押山忠店舗管理マネージャーはいう。休業許可が降り次第、残った改修工事を行う。

EXサービスは宿舎の食堂事業も受託した。宿舎食堂は2月中旬から3月末まで休業し、広すぎて維持費のかかる厨房の面積を3分の2に縮小し、床の排水を良くするなど衛生面の改善を図る。食堂ホールも改装する。4月には「新入生歓迎フェア」を予定している。公誠総合サービス(本社東京・北区)が参入した体芸食堂では、高タンパクの体力アップメニュー(日替わり)を用意した。当初1000円で販売を予定していたが、現在600円に値下げしている。同社つくば営業所の佐藤綾男所長は、「値下げは企業努力、バドミントン部が団体に来てくれたり、手応えを感じ

タといえるだろう。同署交通課の関茂課長によると、04年6月から05年5月までの1年間で、同署管内で発生した本学生の交通事故は月平均24件。月別にみると、4月11件、3月11件、2月11件、1月11件と極端な増減がある。「春は要注意」を裏付ける数字が残っている。

同署管内では、交通環境の悪化を招いている春日、天久保地区での駐車違反の外国人留学生に時折みられる無免許運転も問題になっている。事故多発ゾーンを前に、このあたりも本学の問題といえそうだ。(本紙・兵庫義夫Ⅱ図書館情報専門学群)

5万円以下の罰金。電源を切るか、ドライブモードにする」という。

◆最悪の茨城マナー
免許取り立ての若葉マナーの運転者に関する調査では、運転マナーの問題だ。「残念ながら茨城県の運転手のマナーは最悪。横断歩道に歩行者がいても一時停止しない、黄色信号でも止まらない、進路変更の合図が遅い。この3点だけは、悪い先輩ドライバーの真似をしないで、交通ルール通りの運転をして欲しい。高齢者への思いやりも忘れないで」という。

同署管内では、交通環境の悪化を招いている春日、天久保地区での駐車違反の外国人留学生に時折みられる無免許運転も問題になっている。事故多発ゾーンを前に、このあたりも本学の問題といえそうだ。(本紙・兵庫義夫Ⅱ図書館情報専門学群)

病棟にかかる光の帯 芸術ワークショップ 寒空に発光ダイオード

本学附属病院中央診療棟2階と外来診療棟を結ぶ渡り廊下が2本の光の帯で結ばれた。発光ダイオードの青白い光が冬の寒空に輝いて、入院中の患者さんや外来診療者を喜ばせた。貝島桃代講師(人間総合)が担当している「大学を開く」アート・デザインプロジェクトを履修中の学群生や芸術研究科の院生たちの団体「アスパラガス」が12月14日から1週間にわたって開催したイベントだ。

イベント名は「ウィンドウ・ウィンドウ・ウィンドウ」。はがきサイズの薄い紙を窓に見立て、学生や患者さんが自由に風景画を



患者さんの制作を手伝う芸術の学生

描き、それを丸く透明な200個の「ガチャボン」の容器に入れた。容器は発光ダイオード入りで、それを数珠つなぎにし、幅20メートルの渡り廊下の窓から

星野厚さん(理工学研究所2年)が代表取締役を務めるベンチャー企業「ニューフォレスト」がスポーツマーケティングを支援するソフト「スポーツミラー」を開発した。昨年11月からネットを通じた通信販売

の映像をパソコンの画面上で見ることができる。スポーツミラーには、映像を指定した時間通り遅らせて表示できる機能がある。フォーム確認のため常に視線を向けていなければならなかった鏡を使ったトレーニングと異なり、フォーム確認が格段にやすくなった。

これまでも同じ機能の製品が商品化されていたが、

マンシヨンの構造設計偽装にライブドアの粉飾決算と、「嘘」にまつわるニュースが世間を騒がせている。嘘である以上いつかは発覚するわけだが、現在の利益には、そんな自明なことを忘れさせるほどの価値があるというところだろうか。

ライブドアの事件については、特に思うところがある。今回のような事態を招いた主な責任は、もちろん同社経営陣が負わねばならないが、メディアの責任も見逃せない。今こそ新聞・テレビ各社は、前社長である堀江氏の責任追及の急先鋒にならねばならない。だが、昨年の近鉄球団買収のころはまるで英雄扱いだった。ライブドアという会社自体についても、本体の赤字を合併先の企業の業績でごまかし、見かけ上、黒字にしていることは昨年からネット上では何度も話題に上っていた。

メディアは、いままでは何度もライブドアに疑問を表明し、注意を促す機会があった。道を踏み誤りそうなき、道たにもかかわら 標となるのは身内の百の言葉ではなす、それを逃して、外からの鋭い批判のだから。(図書館情報専門学群) 江氏の手法を追及

読者諸兄 痛烈な紙面批判を

ところで、今月号の編集に三年生は参加していない。記者活動を引退し、一、二年生へバトンタッチしたのだ。新編集長にはこれまでより一層、事実を大切にされた報道を期待する。読者においては、痛烈な批判者となることをお願いしたい。道を踏み誤りそうなき、道たにもかかわら 標となるのは身内の百の言葉ではなす、それを逃して、外からの鋭い批判のだから。(図書館情報専門学群)

春節盛大に 先人を追懐

中国の旧正月にあたる「春節」を盛大に祝う中国留学生春節懇親会(主催・中国留学生学友会)が1月23日午後6時から大学会館食堂で開催され、学園都市内の中国人研究者、日中友好協会員らも交え100人以上が交流を深め合った。

春節にちなんで初めて開催されたのは、前身の東京高等師範時代から、

全代会・副学長懇談会 再編案に厳しい意見 FDフォーラム評価

全代会の活動を報告し、学生と大学の交流を図る副学長懇談会が第一学群食堂で昨年12月8日開かれた。出席したのは、林典典副学長(教育担当)、高橋健夫副学長(学生生活担当)や教職員、学生など。第一部では全代会が、昨年の活動状況を報告し、教職員から意見を求めた。教育課程専門委員会が昨年10月に初めて開催した教員と学生が授業評価・FDについて意見を交換するFDフォーラムが高い評価を受けた。

第二部では、全代会の再編案について説明した。再編案は、議決機関と執行機関の分割を提案したが、教職員側から「再編する必要があるのか」など、厳しい意見が出た。

学群・学類再編に関する特別委員会の川山竜二委員長は「再編については、これからは議論を深めたい」と語った。

2000人を超える本学中国人留学生を追懐し、留学生のその後の功績を知ってもらいたいとの思いからだ。日中の相互理解、交流の促進も目的としている。

つくば日中友好協会事務局長の奥合恵さんは「研究者や学長など、いろいろな人と話ができてよかった。日中の交流も深まったのではないか」と話した。

中国留学生学友会の会長・張耀龍さん(生命環境科学研究科4年)は「これを機会に、来年もぜひ開催したい」と述べた。

け 原生林 生命はぐくむ ブナの森

世界遺産カルタ手作り 芸術科「欲しい」の反響続く

「原生林 生命(いのち)はぐくむ ブナの森」(白神山)「生い茂る 森に眠れる 石の寺(アンコール遺跡群)」

「原生林 生命(いのち)はぐくむ ブナの森」(白神山)「生い茂る 森に眠れる 石の寺(アンコール遺跡群)」



カルタを制作した世界遺産専攻の学生

MTGF OBと現役生が交流 松本侑子氏らゲストに

OBと現役生が交流する第10回筑波大学MTGF(マツモトフミコ・トモコ・グループ)が1月14日、大会館と第一学群食堂を会場に開催された。学生124人、社会人54人が参加した。

午前10時からの「学内研究施設見学バスツアー」のあと午後一時半から、大会館で2つの講演会が同時に行われた。国際会議室では「日本一実践的な講義」...



渡辺和博氏と懇談する参加者(第一学群食堂)

「日本一実践的な講義」では、作家の松本侑子氏、日経ビジネス副編集長の渡辺和博氏、大根田修教授(人間総合)がゲストスピーカーとして招かれ、それぞれ、物語、編集、医学の分野における「アイデア」に対する考えを語った。

「日本一実践的な講義」では、作家の松本侑子氏、日経ビジネス副編集長の渡辺和博氏、大根田修教授(人間総合)がゲストスピーカーとして招かれ、それぞれ、物語、編集、医学の分野における「アイデア」に対する考えを語った。

「日本一実践的な講義」では、作家の松本侑子氏、日経ビジネス副編集長の渡辺和博氏、大根田修教授(人間総合)がゲストスピーカーとして招かれ、それぞれ、物語、編集、医学の分野における「アイデア」に対する考えを語った。

「日本一実践的な講義」では、作家の松本侑子氏、日経ビジネス副編集長の渡辺和博氏、大根田修教授(人間総合)がゲストスピーカーとして招かれ、それぞれ、物語、編集、医学の分野における「アイデア」に対する考えを語った。

VOT

冷たい風が吹きます。VOTの12月18日午後、デジタルカメラやカメラ付き携帯電話を手に4、5人連れのグループが5つ、総勢20人ほどの若者が平砂の国際会議場、共用棟から市街地、千葉のまちまでペDESTリアンを歩いている。

ペデから街づくりを見る

ペDESTリアン(歩行者)の活動は、地域の活性化は、若者がまちづくりに参加することから始まる」という信念から始まる。

ペデから街づくりを見る

ペDESTリアン(歩行者)の活動は、地域の活性化は、若者がまちづくりに参加することから始まる」という信念から始まる。

宿舎13倍の高率に アスベスト除去工事で

学生宿舎の入居者を決める抽選が、例年になく高い倍率になっている。つくば地区の平砂、追越、一の矢の学群生・院生を対象にした一般身用個室は13・88倍だった。昨年度の倍率は3・87倍だったから、4倍

「日本一実践的な講義」では、作家の松本侑子氏、日経ビジネス副編集長の渡辺和博氏、大根田修教授(人間総合)がゲストスピーカーとして招かれ、それぞれ、物語、編集、医学の分野における「アイデア」に対する考えを語った。

市民活動リーダー育成

本学現代的教育二次取組支援プログラム運営委員会が主催する「つくばマイスターフォーラム」が、2月18日午前10時からつくば国際会議場1階大会議室で行われる。

芸術・食・環境に興味を持つ市民、教育関係者を対象に、4月に開講する市民活動リーダー育成プログラム「マイスター」育成講座を紹介する。

午後1時からフリーエッセイコンテスト、町田洋次氏、文化庁芸術文化調査員、野口玲一氏の講演がある。

そのほか芸術展・大学農産物や大学グッズの展示販売が行われる。参加は無料。問い合わせ

◆中央・体芸・図情図書館
◆医学図書館

つくばマイスターフォーラム

春季図書館

土日、祝日は閉館

春季休業中(3月8日-4月7日)の附属図書館の貸出し期間は次の通り。

開館 午前9時-午後5時
貸出 午前9時-午後4時
閉館 午前9時-午後8時
貸出 午前9時-午後7時
全館とも土日、祝日は閉館する。3月8-28日の間に貸出し、更新を受けた図書(閉館中はWeb上で更新を受けた図書)の貸出し期間は通常より長くなり、返却日は4月12-18日の間になる。卒業・修了予定者への貸出しは2月28日まで。大学院に進学する予定の学群生は3月以降も貸出しを受けられる。

らちわ話

失敗談は星の数ほど。ロシアのノーベル物理学者に英語で取材したら「日本語でお願いします」。刑事さんから、「就職は警察なんですか?」。パンツが丸見えのまま、Jリーガーにインタビュー。

催事

大塚氏は人文学類出身。◆芸術専門学群卒業制作展

◆講演会「学生のうちに知っておきたい憲法」

◆映画「内藤君の必需品」

催事

◆講演会「学生のうちに知っておきたい憲法」

◆映画「内藤君の必需品」

◆講演会「学生のうちに知っておきたい憲法」

言語を通じて日中の架け橋担う

趙旭燁さん(国際3年)

とある外国人観光客とガイドのやりとり。「東京タワーの高さは?」「333メートルです。」「なぜ333メートルに建てられたの?。ガイドには、言語力だけでなく、さまざまな疑問に答えられるだけの豊富な知識が必要だ。そんなガイドの仕事と学業を趙旭燁さん(国際3年)は両立させている。

学業の傍ら通訳に励む 台湾新幹線建設に貢献

趙さんは日本人の父親と中国人の母親を持つハーフ。大学に通う傍ら派遣社員として週一回程度、翻訳や外国人に観光案内をしている。中学生のころから、堪能な中国語をかれ、日中間のイベン

先日本人学校に通学するのが一般的だが、せっかくだから現地の子どもと触れあって、中国語も

仕事は翻訳や観光案内が中心だが、国家プロジェクトに関わるような大きな仕事が回ってくることもある。2006年10月の開通を目指して台湾では高速鉄道網(新幹線)の整備が進んでいる。JR東海が技術面で協力し、車両もJR東海の700系が導入される予定だ。昨年秋行われたJR東海と台湾高速鉄道

愛知万博でも中国人や台湾人の観光客を案内し、国際博覧会の運営にも関わった。人脈を広げ、普段は見ることができない社会の一面を見られることが通訳の醍醐味だ。

「卒業後は、語学力と中国生活の経験を活かせるような仕事に就きたい。在学中は通訳の仕事が続けるつもりだ。当分は国内外を飛び回る生活が続く。(本紙・斎藤竜太II比較文化学類)

Who's Who?



手には思い出しの辞書。趙さんの原点だ

10月の開通を目指して台湾では高速鉄道網(新幹線)の整備が進んでいる。JR東海が技術面で協力し、車両もJR東海の700系が導入される予定だ。昨年秋行われたJR東海と台湾高速鉄道

愛知万博でも中国人や台湾人の観光客を案内し、国際博覧会の運営にも関わった。人脈を広げ、普段は見ることができない社会の一面を見られることが通訳の醍醐味だ。

「卒業後は、語学力と中国生活の経験を活かせるような仕事に就きたい。在学中は通訳の仕事が続けるつもりだ。当分は国内外を飛び回る生活が続く。(本紙・斎藤竜太II比較文化学類)

1月の1位はリリー・フランキーの「東京タワー」。2位は東野圭吾の第134回直木賞受賞作「容疑者Xの献身」。天才数学者でありながらさえない高校教師に甘んじる石神。愛した女性を守るため頭脳を駆使し、完全犯罪を目論むが...

次号は
4月7日(金)
発行予定です

大学図書館書籍部ベストセラー

1	ハリーポッターと不死鳥の騎士団 上:下 J.K.ローリング/静山社
2	アフターダーク 村上春樹/講談社
3	介護入門 モブ・リノ/文芸春秋
4	グッドラック アレックス・ロピラ他/ポプラ社
5	空中ブランコ 奥田英朗/文芸春秋
6	邂逅の森 熊谷達也/文芸春秋
7	世界の中心で、愛をさけぶ 片山恭一/小学館
8	十二番目の天使 オグ・マンディーノ/求龍堂
9	いばらぎじゃなくなくていばらぎ 青木智也/茨城新聞社
10	ダーリンは外国人 12巻 小栗左多里/メディアファクトリー

1月の1位はリリー・フランキーの「東京タワー」。2位は東野圭吾の第134回直木賞受賞作「容疑者Xの献身」。天才数学者でありながらさえない高校教師に甘んじる石神。愛した女性を守るため頭脳を駆使し、完全犯罪を目論むが...

催事

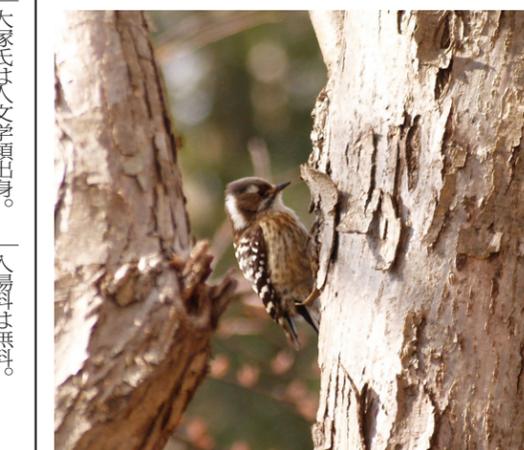
◆講演会「学生のうちに知っておきたい憲法」
2月20日午後6時から1D
204教室で。講演者は批評家の大塚英志氏。消費社会論やサブカルチャー、文芸に関する批評で知られ、まんが原作者としても活躍。若者に自ら憲法前文を書いてみることをよびかけ、昨年は『憲法力5分野』制作展は洋画、日本画、彫塑など11分野。

◆映画「内藤君の必需品」
上映会 2月6-10日の午後6時30分から1D204
かつて本学のマスコミ志望者が集った「青木塾」ジャーナリストとなった元塾生が贈る珠玉の1冊

◆映画「内藤君の必需品」
上映会 2月6-10日の午後6時30分から1D204
かつて本学のマスコミ志望者が集った「青木塾」ジャーナリストとなった元塾生が贈る珠玉の1冊

筑波野生動物図鑑

◆コゲラ◆



スズメ大で、日本のキツツキとしては最も小さい。日本全国に留鳥として生息し、学内でも普通に見られる。白と褐色のまだら模様で、オスの頭には赤い羽毛がある。木の幹をしっかりと削り、樹皮下に潜る昆虫などを採っている。鳴き声は「ギィー」。(写真・松家大樹II生物資源学類4年文・清水将太II生物学類2年、共に野生動物研究会)